

2024年4月9日
日本船主協会企画部広報室

2024年海運講習会を開催 ～新たな船出に心からのエールを～

当協会は、新入社員の社会人としての門出を祝すと共に、海運業界で働く者としての心構えや自覚醸成に資することを目的として、会員会社の新入社員を主な対象に、1957年から65年以上に亘り「海運講習会」を開催しております。

本年は、3月29日に会場（海運ビル）およびライブ配信を活用したハイブリッド形式にて開催し、海運業界や海を舞台に活躍する社会人の先輩方々より下記プログラムのテーマでご講演をいただき、全国各地から21社273名が受講しました。

受講後のWebアンケートでは、「改めて日本の貿易を支える業界、気候変動や世界情勢に大きく影響を受ける業界なのだと実感した」「海賊のことは気になっていたので今後航海をする上でとても興味深かった」「色々な立場で様々な経験をお持ちの方々のお話を聞くことができ、業務内容や海運で働くことへの思いを感じ取れる講習会だった」等の感想が寄せられました。

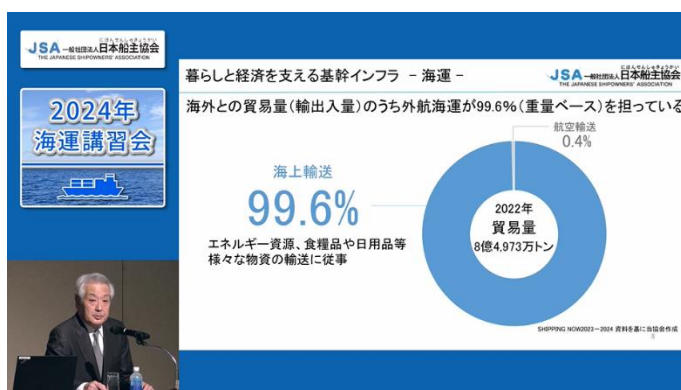
<講演の概要>

1. 「海運における時代感」(当協会常勤副会長 土屋 恵嗣)

はじめに、自身も1983年にこの講習会を受講したことに触れ、日本における海運業界の重要性、世界の暮らしと産業を支える社会インフラとしての役割と、海運業の特徴、ならびに安全運航や環境対策といった課題への取組みを紹介しました。

次に、船が原始時代以降辿ってきた変化を通じて、特に帆船の時代以降、燃料や貨物、荷役も変化してきたことにも触れました。

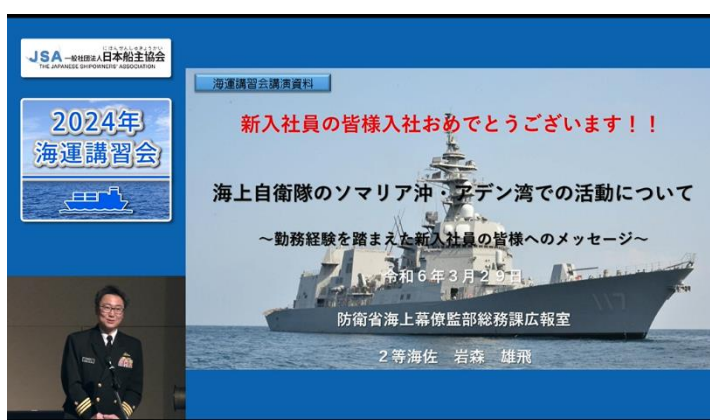
最後に、脱炭素化対応や大きな技術革新による近未来の海運の姿を示し、講演の締めくくりとして、「海運を変えていくのは皆さんです」との言葉を贈り、新入社員の今後の活躍に期待を寄せました。



2. 「海上自衛隊のソマリア沖・アデン湾での活動について」

(防衛省海上幕僚監部総務課広報室 2等海佐 岩森 雄飛 氏)

はじめに「海と日本の関係」として、四面環海の日本において海が果たす、輸送路、資源、防壁等の役割を示しました。次に、その海を舞台に活動する海上自衛隊について、その組織や役割に関する説明がありました。特に、日本の海運にとって非常に重要な意味を持つソマリア沖・アデン湾の海賊対処行動に関しては、海賊の背景や、実際の現地や艦上等の写真を交えて紹介がありました。最後に、これから社会人となる受講者へ向けて、「これだけは守る、大切にするというものを持って仕事に励んでみてください」との激励の言葉がありました。



3. 船長講話 (日本船長協会 参与 滝浦 文隆 氏)

はじめに、日本の海運についてクイズを出題した後、船員用語で「カタフリ」という、海技者が経験を共有する様子になぞらえて、自身の経験も交え、船上の生活や航海の様子、スエズ・パナマ両運河の通航の様子を写真、動画、アニメーションと共に紹介した他、国際条約の条文にも含まれる **Seamanship** という言葉に言及し、知識だけでなく経験にも基づいた判断が時に必要であることを紹介しました。

加えて、船のコミュニケーション方法についても取り上げ、実は身近なところでもモチーフになっている国際信号旗のほか、AIS や無線、各種衛星通信といった船舶間、船陸間での通信手段を紹介し、船上と陸上とのコミュニケーションが大切であることを説明した他、昨今は宇宙からの衛星等の落下物についても、船舶の運航に影響する点を紹介しました。





会場（海運ビル）の様子



挙手する受講者

※1：岩森氏は、水上艦艇の幹部としてこれまで護衛艦等 8 隻において勤務経験を有し、防衛大学校指導教官、自衛艦隊司令部などの陸上部隊での勤務も経験され、2022 年 9 月から 2023 年 4 月までの間、ソマリア沖・アデン湾に派遣された第 43 次派遣海賊対処行動水上部隊で護衛艦「すずつき」艦長を務め海賊対処行動に従事。現在は海上幕僚監部総務部総務課広報室勤務。

※2：滝浦氏はコンテナ船、タンカー、鉱石船、自動車専用船、LNG 船などさまざまな船に乗務し、2008 年船長に就任。その後、船長として海上勤務や国内外での陸上勤務に従事し、2024 年 2 月に日本船長協会へ着任して以降、全国小中学校を中心に海運の重要性や国際的な視野を啓発する活動を展開している。